

教育課程特例校による特別の教育課程の編成の方針等について（英語活動の実施）

1 岡崎市における教育課程特例校指定の沿革

岡崎市では、英語で自分の思いや考えを伝え合うことができる「英語が話せるおかざきっ子」の育成を目指し、平成22年度より教育課程特例校の指定を受け、小学校第1学年から第6学年で「英語活動」を実施してきました。

平成31年度以降、学習指導要領の先行実施に伴い、第5、第6学年で外国語科の授業時間数が週2時間に増えたことを受け、教育課程特例校による特別の教育課程の編成を小学校第1学年から第4学年までに変更しました。

2 岡崎市における小学校第1学年から第4学年での取組

現在岡崎市では、小学校第1学年から第4学年において「英語活動」の授業を行っています。

第1学年と第2学年では、「生活科」の時間を35（第1学年は34）時間を「英語活動」に充てています。小学校第3学年と第4学年では、「総合的な学習の時間」35時間を「英語活動」に充てています。

【資料1】岡崎市の教育課程（基本案）

区 分	各 教 科										特別の教科 道徳	特別活動	総合的な学習の時間	外国語活動 + 英語活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語					
第1学年	306		136		68	68	68		102		34	34		0+34	850
第2学年	315		175		70	70	70		105		35	35		0+35	910
第3学年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	35	35+35	980
第4学年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	35	35+35	1015
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35	35	70		1015
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35	35	70		1015

各学年における「英語活動」では、毎日10分の帯時間に岡崎市小学英語研究委員会の自作DVD『OK English(約8分のDVD)』を視聴することで、週1コマの授業時間としています。DVDの内容は、英語の歌、フォニックス、リズムに合わせてネイティブスピーカーの後に単語や文を発音する活動、実際に動作をしながら学級の中で他の児童と会話をする活動など多岐にわたります。各学年の発達段階を考慮しながら、学級担任とともにDVDを繰り返し視聴することで、

【資料2】OK English



英語の音や基本的な表現に慣れ親しんでいます。

3 本校の取り組み（第1学年～第4学年）

本校では、毎日昼の休み時間後の13時30分からの10分間を「英語活動」の時間として設定しています。時間になると全児童がテレビ画面に向けて机を移動させて準備します。

各学級の「英語活動」係の児童が、DVD視聴の準備をし、13時30分になると全教室から、DVDのスタートを知らせる「OK-English!」の歌声が聞こえてきます。「英語活動」において、担任は次の3点を意識し、DVD視聴の時間に取り組むようにしています。

①明るく元気のよい声で大きなジェスチャーをし、児童と一緒に楽しみながらDVD視聴をします。

②正しい発音に心がけたり、様々な活動に笑顔で参加したりするなど、児童の手本となるようにします。

③元気よく、表現豊かなスピーチや動作ができている児童を大いに称賛し、児童の学習意欲を高めるようにします。

児童は、DVDに登場するネイティブスピーカーの指示に合わせ、身近にある様々な事柄の英単語を繰り返し発音したり、“Do you like～?”などの質問に答えたりしています。ときには、音楽に合わせてダンスをしたり、クイズに答えたり、各学年に応じた多彩な活動に楽しそうに取り組むことができます。特に、リズムに合わせて発音するチャンツの場面、フォニックスの場面になると、大きな声と動作でまねをしたり、アルファベットをそら書きをしたりする児童もいて、明るい雰囲気です10分間の活動に取り組むことができます。

児童に英語活動に関するアンケートを行ったところ、「英語活動は楽しいですか」という問いに対して、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した児童は全体の96%でした。また、「DVDの内容はわかりますか」の問いに対して、「よく分かる」「まあまあ分かる」と答えた児童は全体の87%でした。このことから、本校の児童は、楽しみながら英語活動を行っていることがわかります。DVDの視聴による英語活動は、児童にとって英語に慣れ親しむ時間となっているといえます。

また、DVDの視聴で学習した英語表現を外国語活動の授業で生かす実践も行いました。DVDで“Let's play tennis.”の語句を学習した4年の児童は、この語句を用いて友達を遊びに誘いたいと考えました。そこで外国語活動の時間に「学級レクでしたい遊びを決めよう」という課題を設定し、相手の好きな遊びを尋ねたり、自分の好きな遊びを誘ったりする活動を行いました。より楽しい学級レクリエーションにしようと、児童は積極的にコミュニケーションを図り、友達を遊びに誘う英語表現に慣れ親しむことができました。



【チャンツに合わせて練習をする児童】

このように児童は英語に苦手意識をもつことなく、楽しみながら英語に慣れ親しむことができます。毎日10分の英語活動を継続していることで、児童にとって英語がより身近なものになっています。